

Dialysis-net 802

要介護透析患者 ワーキンググループ

橋本クリニック

齋藤 毅

東京医科大学八王子医療センター

吉川 憲子 櫛引 庸子
佐藤 光奈子
崎村 加奈子 松井 典子

みなみ野セントラルクリニック

内山 正美

北八王子クリニック

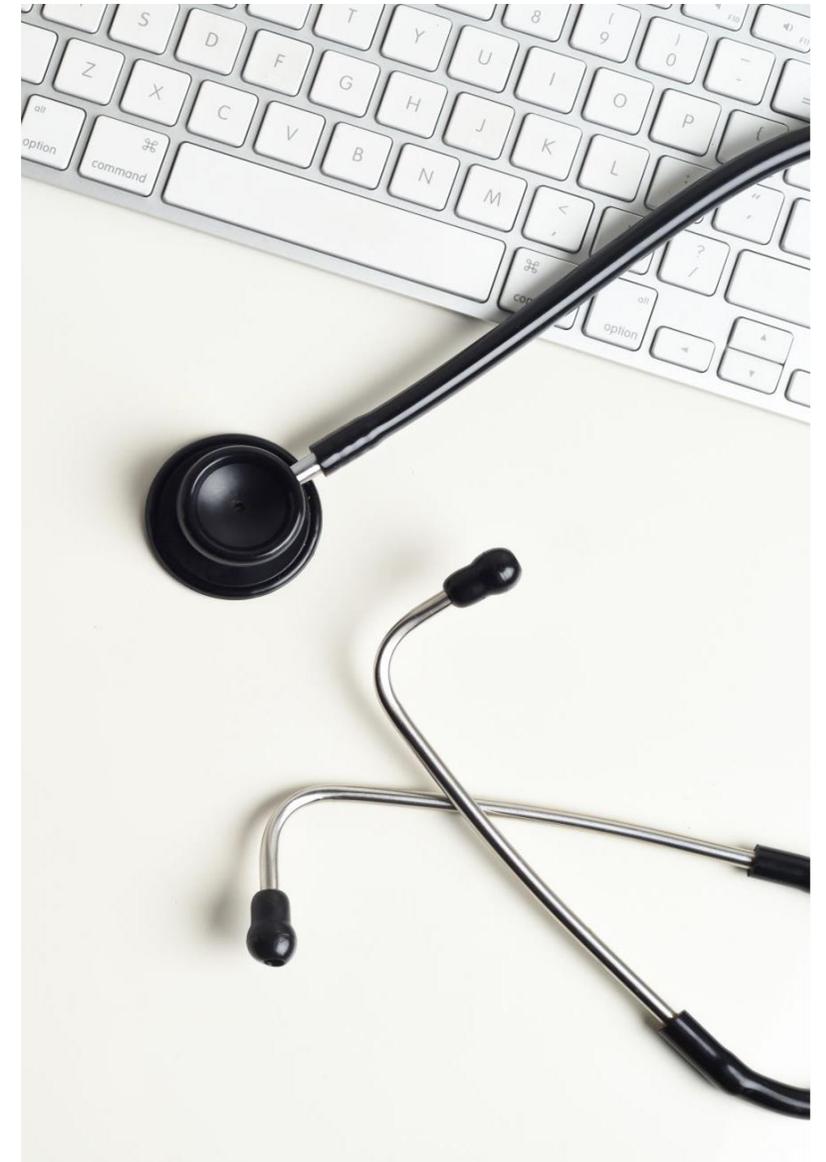
岩間 佐智子

八王子薬剤センター

添石 遼平

八王子介護支援専門員連絡協議会

森川 直子 加藤 治也
平川 亜衣



Dialysis-net 802

要介護透析患者ワーキンググループの活動

【活動目標】

地域における透析患者の介護が円滑に行われることを目的とし、在宅介護支援員・老人介護施設と透析医療施設との窓口になり、問題解決に取り組む。

また在宅介護支援員・介護士、老人介護施設に対して、透析医療に関わる情報提供を行う。

【活動内容】

- 介護支援専門員とのミーティング（年2回）
- 介護支援専門員が透析患者の介護についてのアンケートを実施し問題点を抽出。
それに対する解決を図る
- 介護支援専門員を対象に透析患者に関する情報を提供し交流を図る

・ Dialysis-net 802 八王子医療圏透析医療連携ホームページより

- ・ 2014年6月 5日 八王子介護支援専門員連絡協議会対象 八王子市役所
テーマ： 「透析患者の病態、食事について」
- ・ 2016年7月21日 相模原市介護支援専門員連絡協議会対象 相模原市役所緑区合同庁舎
テーマ： 「透析患者高齢化の実情、透析患者受け入れ可能介護施設の案内」
- ・ 2017年4月 5日 八王子介護支援専門員連絡協議会対象 八王子市労政会館
テーマ： 「透析患者高齢化の実情、透析患者受け入れ可能介護施設の案内」
- ・ 2018年9月20日 八王子介護支援専門員連絡協議会対象 八王子市労政会館
テーマ： 「高齢透析患者の治療の選択肢について」
透析患者が利用できる介護施設一覧の作成、各透析クリニック、介護支援専門員への配布
- ・ 2019年9月19日 八王子介護支援専門員連絡協議会 研修会 八王子市医師会館
テーマ： 「透析患者の退院支援と在宅サポート」
「介護保険を利用してもらえず通院支援に難渋した事例」の症例報告・多職種グループワーク
- ・ 2020年9月17日 八王子介護支援専門員研修 医療連携2 オンライン研修 YouTube配信
テーマ： 今こそ縮めよう！医療と介護のディスタンス 介護関係者に対するアンケート調査

**Dialysis-net 802 要介護透析患者ワーキンググループ
八王子介護支援専門員連絡協議会**

合同 オンライン研修会

**今こそ縮めよう！医療と介護のディスタンス
～要介護透析患者について、医療と介護の連携を深めよう～**

2020年9月17日（木）

医療者への介護関係者に対する アンケート調査の結果報告

Dialysis-net 802 要介護透析患者ワーキンググループ

○橋本クリニック

東京医科大学八王子医療センター

みなみ野セントラルクリニック

北八王子クリニック

八王子山王病院

八王子薬剤センター

八王子介護支援専門員連絡協議会

齋藤

吉川

佐藤

田中

内山

岩間

中村

添石

森川

毅

憲子

光奈子

隆一

正美

佐智子

千里

遼平

直子

小笠原ゆかり

猪俣 晶子

平川亜衣

ケアマネへの要望

- なるべくMSWに声をかけて来院してほしい
- 独居高齢者に対するケアプランの変更の対応
- 問題あるときだけでなく入院・通院開始時に顔を合わせしてコミュニケーションを深めたい
- 年1回くらいは顔を合わせたい
- 連絡がつきにくいことがある
- ケアプランを把握していないケアマネもいる
- 要介護認定が認定されケアマネが決定した時に一報いただけたら連携に助かる
- 連携ノートなどの使用で状況把握
- 居宅サービス計画書がいただけると助かる
- 透析についてわからないことがあればいつでも連絡してほしい

パネルディスカッション

「要介護透析患者の施設入居事例、 在宅生活の支援事例から見えてくる連携のあり方」

ファシリテーター 東京医科大学八王子医療センター 医師 吉川 憲子 先生

みなみ野セントラルクリニック 医師

内山 正美 先生

パネリスト

セントラルケアホーム プレシャス橋本 課長

佐藤 巧太郎

北八王子クリニック 医療相談員

岩間 佐智子

事例報告

あしたば居宅介護支援事業所 介護支援専門員

光永 真紀

指定居宅介護支援事業所さによゆう 主任介護支援専門員

加藤 治也

CM課題・アンケート「あなたが取り組みたいことは何ですか？」（抜粋）

姿勢：**顔が見える関係**づくり、苦手意識の克服、忸度しない、積極的に関わる
利用者・家族を含めての支援チームと医療との連携の橋渡し。お互いの役割を理解。

スキルアップ：医療知識、コミュニケーション技術（要件を端的にわかりやすく）
情報と状況の整理

情報：CM→日頃の在宅生活の様子、体調の変化、心配なこと、わからないこと。
DR→生活上の留意点

具体的手段：**受診同行**、ケアプランの交付、サービス担当者会議、文書、電話、メール、
まごころネット、ICT活用

意見交換の場：研修会・交流会の開催

目的：病気の治療をしながらも望む生活が少しでも長く続けられるように支援したい。
入院しないように。チームで支援。目的の共有。緊急時に迅速に対応できる。

令和2年9月 研修を終え、アンケートを基にミーティング

「まごころネットって何？」 「MCSはどう？」

「『顔の見える関係づくり』『受診同行したい』とのコメントが多いけれど、直接顔を合わせるのは困難では？」

「コロナ禍という機会をきっかけに直接会わない連携方法を模索するのはどうか。」

「患者さんに診察の状況をスマホやタブレット等で見てもらうのは？」

「顔あわせをしない方法での医療者と介護者の連携を図るには？」

2021年度の目標 「直接会わない連携方法の模索」

→まごころネットやSNS等を使用して

近い関係構築を考えることを今後の取り組みとする

まごころネット、使ってみた

電話するほどでもなく、FAXではちゃんと届くか不安があり、相手が見ているかわかりづらいが、まごころネットはリアルタイムでなくても相手が見ているのもわかるため使い勝手がいいと思う。

簡単だったので、他の医療者にも伝えたい。

診療情報や依頼を書いて、返事がもらえる、

終末期の意向を入れられるため、話すきっかけにも使える。

在宅に帰す患者で、訪問診療に帰す患者さんのことでやり取りをしている。

反対意見もあります

- 実践的に使うとなると、忙しい中でこれをやり取りする時間があるかを考えると厳しい。患者の情報のやり取りは電話やFAXが多かった。まごころネットだと、双方がパソコンを見ないといけない。
- FAXでいいと思う。
- 看護師が情報のやり取りをしていることが多い。みんながうまく使えればいいが、使いづらいと思うため、スタッフにすすめられない。
- 医師とのやりとりにはいいが、看護師となるとハードルが高いのか。
- 看護師が入力するのは業務が大変。

それでも→

- 診療情報提供書に記入し、印刷してクラークが封筒に入れ郵送する方法に比べると楽。送る手間がない。印刷してFAXするより手間は減る。相手が読んだことが分かるという点でメリットがある。
- 在宅の様子を知るためのツールとして使う
- 患者に関わる他職種で情報を共有するために使う
- 入院するときの情報提供書として使うものではない・ケアマネとしては、先生と対面で話すことがないので、ツールを使用することで、ケアマネから見た自宅での様子を先生に伝えられる。かしまって報告しなくても、出来るので使いやすい。
- 時間を気にせず、チェックできる

〈結論〉 一つの方法として利用症例を増やしてみる

オンライン退院前カンファレンス

〈オンライン退院前カンファレンスが必要な場面〉

事前に紹介状を持って家族が面接に行き、クリニックを決定する。患者は退院後初めてクリニックに行くが、その際、こんなに歩けないのかと事前の情報では実際のADL状況の把握が困難であった事例があった。

コロナで入院している患者の家族が病状説明をされていず、どういう状況下に患者があるかを家族がわかっていない。帰ってきたら、すごいことになっていた。リハビリの状況を共有できればいいが、そこまで使いこなせていない。

〈結論〉

入院でADLが低下した患者だけでも、なんらかのツールの使用を推進し、オンラインでの退院前カンファレンスを行っていく必要がある

オンラインでやることについて病院に許可をとり、部屋やパソコンを準備していけば、できるのか確認する。

コミュニケーションがとりづらくなっているため、電話やオンラインなどみんなが努力してコミュニケーションをとる必要がある。

透析だけでなくADLが低下した患者の退院前のオンラインミーティングは必要。

今回ZOOMを重ねてやってみて、便利だと実感した。失敗してもいいから、実際にやってみることが必要。

〈透析導入後転院面談がなくなったことについて〉

- 患者は退院前にクリニックを見学できないまま決定しなければならない
- 患者が何年も過ごしていくところを見学することなく決定したことで、患者が本当に満足できているか危惧される。
- 実際に透析する場所、更衣室などを患者は事前に見学できない。
- 患者と家族にとっても実際に見学しないと通院方法等もわからない。
- 患者サービスとしては問題である。
- 患者はクリニックを見て選べない
- 在宅で受け入れる側も大変歩けた患者が歩けなくなったため、結局家から通えず、施設についで入った。
在宅の方が手配は大変になる。

〈結論〉

患者が納得できるよう情報を提供する方法を検討する必要がある。

医療センター吉川先生とまごころネットで連絡・連携したCMより

「最初はびっくり。医療センター、東海大のDrが腹膜透析の方に対し、熱心だとは承知していたが忙しい中で、まごころネットで情報を提供してくださって、感謝・感心しています。Dr、Ns、CMで立場が違います。CMとしては家族の様子だったり、家ならではの思い、「息子さんと二人暮らしですが、本人主導です」とか情報を伝えています。急ぎの連絡には不向きですので、その際は電話です。受診時に本人に吉川先生から「ケアマネさんから連絡来たよ。」と伝えてくださったり、またCM訪問時に「まごころネットに『データ良いですよ』と書いてありましたよ。」とお話しすることで、本人にとっては「支援者がつながっている安心感」があります。要介護1の方なので福祉用具の軽度者申請に必要な主治医の意見も聞きやすいです。」



パネルディスカッション



実践！発見！ICT

- ①まごころネット、使ってみた。
- ②ZOOMでオンライン面談。
- ③パネルディスカッション(ICTの活用事例やコロナ禍の血液透析について)

(パネリスト)

八王子医療センター	医師	吉川	憲子	氏
みなみ野セントラルクリニック	医師	内山	正美	氏
橋本クリニック	医師	齋藤	毅	氏
北八王子クリニック	MSW	岩間	佐智子	氏
八王子医療センター	MSW	櫛引	庸子	氏
	看護師	佐藤	光奈子	氏
居宅介護支援事業所 心成苑	CM	沼山	正美	氏
居宅介護支援事業所 スローライフ	CM	加藤	智子	氏

(司会)

八王子介護支援専門員連絡協議会	理事	加藤	治也	氏
-----------------	----	----	----	---